

K2プロジェクト提案計画の進捗状況

No.	提案年度	実施取組名	実行担当課	進捗状況		
				現状区分	内容	課題
1	R4	消防隊の能力及び火災対応力の向上について	警防課	継続	①実火災対応型訓練施設を活用した訓練の実施予定 ・指導者養成研修 6月 ・体験者研修 10月～12月 ・他市消防本部体験者研修 10月～12月 ・施設を活用した訓練 10月～12月 ②警防部会 ・スタディーミーティング 9月(若手職員の現状と疑問点の把握) ・第1回警防部会 9月(スタディーミーティングの内容を反映) ・第2回警防技術指導員研修会 10月	・訓練を継続的に実施するための訓練内容の工夫 ・訓練評価基準の作成と確立 ・訓練指導方法の統一化と推進
2	R4	山形市消防本部公式SNSアカウントの開設	東消防署	継続	①身近な存在として感じる投稿を継続し、信頼獲得を目指す。 【公式】エックス R5 投稿回数 46回 平均閲覧回数 2,200回 最高閲覧回数 9,000回 R6 投稿回数 6回 平均閲覧回数 1,400回 最高閲覧回数 2,000回 【公式】インスタグラム R5 投稿回数 56回 平均閲覧回数 19,000回 最高閲覧回数 347,000回 R6 投稿回数 8回 平均閲覧回数 11,000回 最高閲覧回数 41,000回 ③投稿する職員を増員し体制を整備する。 各課及び各署所担当職員 R5 13名 R6 16名	・注目される投稿及び目的達成に繋がる内容の検討 ・操作及び動画作成に関する知識を有する職員の育成
3	R4	救急救命士継続教育に係る病院実習の実施方法の見直し	救急救命課	継続	救急患者に対する処置回数の増加や静脈路確保の実施成功率の上昇が認められる。実習計画に基づき実施予定。	・出向人員の調整 ・実習医療機関の振り分け ・評価表の改訂
4	R4	救急隊の教育について	救急救命課	継続	救急部会 5月に開催(次期開催調整中) 救急隊長・隊員の教育、指導力向上について協議し、訓練を重ねながら現場活動へ反映させる。	・レベル別、各個人のニーズに対してどのように対応するか ・教育評価管理体制の確立
5	R4	動画を活用した人材育成	予防課	継続	職員に限定して3回公開し、延べ342人が視聴している。複雑な消防法令を動画のみで教養することに限界があるため、動画と併用できる人材育成の方策を入れ込みながら継続的に公開する。	動画を作成するのに時間を要するが動画のみで教養することに限界がある。
6	R4	消防安全サポーター制度による火災予防対策	予防課	継続	①制度を検討する前に予防業務の整理を実施 ・電子申請の利用拡大 ・建物台帳の電子化 ・立入検査のやり方の見直し(非番日から当番日へシフト) ②実施計画 安全サポーター制度の目的は、火災予防に関する市民の理解を深めて出火防止及び火災による被害を軽減させようとするものであるため、広く消防業務を理解していただき消防をサポートしていただくことができるよう、修正を加えながら取り組みを推進する。 ・立入検査時に住宅防火のリーフレット ・消防イベントの案内を配布	・消防側からのアプローチ方法の検討 ステッカーを平等に配布するためことが困難であるが、消防側からの働きかけによって火災予防対策を講じることは効果が望める。 ①これまで 消防法令の不備を指摘する立入検査の通知 ②これから ①+住宅防火のリーフレットや消防イベント案内等を実施時期に併せて配布
7	R5	きもちよくあいさつしませんか	東消防署	継続	ポスター掲示、GWポップアップなど日頃から取り組める体制を整備した。実施状況の把握の他、効果検証を行い取組が更に根づくよう実施していく。	・職場全体にさらに根付かせるための整備の工夫検討 ・職場内だけでなく、市民に向けたあいさつ運動取り組みの広報を検討していく。
8	R5	K2のK2(改革改善プロジェクトの改革改善)	総務課	実施済	提案計画を盛り込んだ事前説明会や臨時改善会議を行えるプロジェクト体制の整備を行った。更に、「行革甲子園2024」へK2プロジェクトを応募し、プロジェクトの広報及び成熟を目指す。	・提案したいと考える職員のサポート体制 ・風通しの良い組織風土及びプロジェクトの定着(周知方法など) ・実行することとなった取り組みの進捗把握とサポート体制
9	R5	災害発生時の報道機関対応の効率化について	通信指令課	継続	報道機関対応専用電話を設置し、集約した情報を的確に提供できる体制を整備した。提供する情報については、市政記者クラブ等と継続協議を行い、双方の情報及び要望を集約し効率化を図る。	専用電話での情報提供の他、メールによる提供を求められている。提供方法及び内容を検討する。
10	R5	地水利改革	西消防署	継続	Fire FISHの概要や利便性、注意事項、各業務を盛り込んだ実施手順等の更新マニュアルを作成中。最新の情報の更新方法、改善点、要望等を提案する共有フォルダを作成し、より精度の高く魅力的な「Fire FISH」の運用を推進していく。	・水利データの更新、管理及び実施手順マニュアルの作成 ・アプリの運用の練度を上げる方法の検討 ・職員への周知方法の検討
11	R6	山岳救助活動における課題を越えて	警防課 東消防署 西消防署 総務課	継続	①専門資器材の配備(モンベル協定・令和6年度予算にて購入済み) ②協力体制の構築(スキーパトロール等との協定締結協議中) ③救助隊の任務整理及び教育体制の構築(研修受講済み・体制整備中) ④山岳救助隊(消防隊兼務)の発隊	令和7年度から令和9年度までを試行期間とし、令和10年度の体制確立を目指す 民間事業者との協定締結 隊員の増強を含めた山岳救助体制の強化 山岳救助マニュアルの策定
12	R7	火災による被害軽減のための防災センターの活用	予防課	継続	自衛消防訓練実施要領を制定 防災センターで一般公募による自衛消防訓練を実施	事業所への周知方法の見直し 事業所単位(3名以上)訓練の対応整備 訓練参加者への修了証の配布
13	R7	消防カードで減らす災害からの被害	総務課	継続	5種類のカードを作成、15,000部印刷し、直近のイベントから配布を開始する。	2年周期で、各所属の輪番制でカードを作成していく。 カード作成の効果をいかに設定するか(Youtube動画の閲覧数?)。